

伊豆沼の夜明け

丙午
元旦頌
春

年頭にあたり謹んで

新年のご挨拶を申し上げま

副代表理事

大坪俊男



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は当法人に対して、会員並びに介護事業者等各位からの温かいご理解とご支援、並びにご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

本年は干支で申しますと「午(うま)年」で、古来より午は「勢いよく駆け抜ける」「力強く前進して困難を乗り越える」象徴とされております。

本年も社会経済を取り巻く環境は、ますます厳しくなると思われますが、「午年」にあやかり挑戦・変化に対して前向きの姿勢を崩さず取り組むために、私なりに二つの目標を掲げました。

第一には、調査員として「笑顔と思いやり、感謝の気持ちを忘れず、調査員同士の連携を大切にして、介護サービスの質の向上につながるよう取り組む」とこと、第二には「『出来ないから』ではなく、どうしたら出来るかを考えて『チャレンジ』する」ことを掲げてスタートしました。皆様もそれぞれ英気を養い、新年への希望や抱負を胸にスタートしたこととご推察いたします。

さて、少子高齢化社会における介護保険制度を取り巻く環境は厳しく、安定した介護サービス提供を維持していくためには、介護職員の確保や介護費用の増加に伴う財源確保、介護サービス利用者様の増加等の諸

課題や、一方では在宅における老々介護や高齢者の孤立、成年後見人問題などが浮き彫りとなっております。

こうした状況を踏まえ、2026年度の介護保険制度改革では、人材不足への対策、IT技術を活用した介護職員の業務負担軽減(介護DX)の推進や待遇改善の拡充、在宅介護を支える地域連携の推進などが検討されております。また、今年4月より要介護認定情報やレセプト情報、ケアプランなど、利用者様に関する介護情報が共有できる「介護情報基盤の運用」が始まる予定であり、その具体的な内容に注目していかなければならぬと捉えております。

介護サービス情報の公表や地域密着型サービス外部評価に携わる調査員として、介護保険制度改革などを充分に理解しつつ、介護事業者や関係機関各位と連携を図りながら、訪問調査などを通して「新たな気づきと更なるサービスの質の向上」などの一助となるよう取り組むと同時に、当法人としても「調査員一人ひとりの知識や技術を活かし、介護事業者各位と共に介護サービスの質の向上」に努め、信頼される調査機関として活動する所存であります。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といったします。

介護サービス情報の公表調査

令和7年度の介護サービス情報公表調査は、令和7年10月6日から令和8年3月6日までの期間で実施され、実調査日数は95日間で昨年度に比べて42日間多い結果となっています。

調査の受託件数は、宮城県分が306事業所、仙台市分は242事業所の計548事業所を対象として調査を開始し、11月末時点で248件の調査を終え、進捗率は45%となっています。

今年度は新型コロナウイルスの影響は落ち着いたものの、インフルエンザの流行により調査日程の変更が発生し、単独調査となる事業所が増加しています。また、地域密着型サービス外部評価調査との同日調査を希望する事業所も多く、調査活動にかかる経費の負担も増大しています。

12月以降は降雪や路面の凍結による交通機関の乱れによる車の運転への影響が懸念されますが、調査にあたっては事前準備を徹底し、安全確保を最優先に慎重に進めていただきますようお願いいたします。

地域密着型サービス外部評価調査

令和6年度の実施状況を踏まえ、外部評価方法は選択制とはいえ情報の透明性確保を目指し、調査事業所数の確保に努め、令和7年度は110事業所の申し込みがあり、11月末で44事業所を実施しました。

評価委員会は令和6年度同様週1回開催し、主任調査員の出席を基に誰もが理解しやすい報告書作成に努め、作成後は対象事業所との評価内容の確認と目標達成計画提出の連携を図り、2ヶ月以内でのワムネット公表を推進しております。

令和7年度の地域密着型サービス評価調査員養成研修には新会員3名が参加・修了し、10月から調

査員として活動しています。

調査員の資質向上に向けたフォローアップ研修については、第1回を8月20日に開催し「調査方法等の手法や情報の共有等」の意識合わせを行い、第2回は1月から新調査員としてデビューする3名も参加して12月23日に開催、「スムーズな調査の為に」のテーマで活発な意見交換等で相互研鑽を図りました。去る9月22日に開催された宮城県主催のフォローアップ研修には21名が参加し、各事業所の皆様との交流を深めました。

今後もより良い外部評価につながるよう、調査員や評価委員と事務局間の連携を図り、なお一層の研鑽に努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

会員支え合い活動

去る6月17日に開催した「高齢者が直面する法律面での相談事例あれこれ」講演会には、多数の会員の皆様にご参加を頂き、盛会のうちに終了することが出来ました。今後の活動については、推進委員6名で検討しているところですが、

- ① 会員の積極的な参加が少なく、推進委員の電話勧誘等により参加を依頼している
- ② 推進委員の高齢化等に伴い、今後の活動維持は難しい状況となっている

等の意見があり、今後の活動継続は困難な状況と考えられます。

つきましては、会員の皆様の積極的なご参加と合わせて、推進委員として活動参画ご協力をよろしくお願ひいたします。

広報活動

今年度よりニュースレター発行は7月1日及び1月1日の年2回となりました。

7月に151号を発行し、11月から152号の編集作業入り、今号の発行となりました。

なんでも相談活動

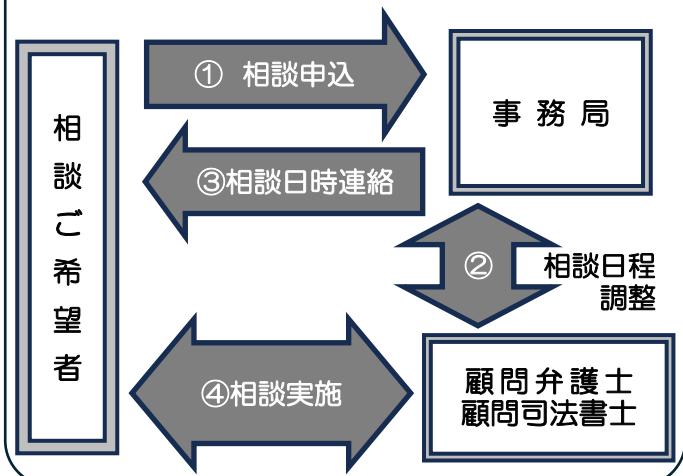
5月から毎月1回開催しており、相談の流れは、

- ① 相談申し込み
- ② 相談日程調整
- ③ 相談日時連絡
- ④ 相談実施

となっております。(下図をご参照下さい)
受け付けは、随時事務局で行っておりますので、相談ご希望の方はいつでもご連絡願います。

10月までの相談件数は6件となっております。

《相談の流れ》



新調査員紹介

(五十音順)

〈質問項目〉

- ① 会員になったきっかけ
- ② 訪問調査をして感じたこと
- ③ 趣味・特技
- ④ 今後の目標

- ① 退職後、介護に関わる仕事ができればと思っていたところ、当会会員に声をかけていただいた
- ② 施設の方々は忙しい中でもきちんと資料を揃えてくれることや、真摯に仕事に取り組んでいる姿勢に頭が下がる想いでした
- ③ 着物を着て友人たちと食事をしたり、演奏会やお茶会に出掛けること
- ④ 一日も早く仕事をきちんと出来るようにしたいです。また、体力を維持できるよう努力し、健康で多くのボランティア活動をしたいと思っています

小林 かづゑ



長谷川 重人



- ① 知人からお誘いをいただいた
- ② 昨年5月の就業説明会に始まり、研修、訪問調査と瞬く間の7か月間でした。訪問調査では、研修で習得した覚束ない知識では不安でいっぱいでしたが、経験豊富な先輩方からのアドバイスや経験談をご教示いただき、一寸だけ前へ進めそうな気がしています
- ③ 山歩き、海釣り、スポーツ（今年はピックルボールに挑戦）
- ④ 今年は調査業務2年目となります、当会の理念と目標を実践できるよう努力する所存です

- ① 知り合いの当会会員から、ホームページ更新に苦労されていると伺い、微力ながらお手伝いできればと思い、入会しました
- ② 事業者が自ら運営状況を点検し、調査員が確認することで良質な介護サービスの提供をめざす「介護情報の公表」のスキームを、事業所の雰囲気も含め把握することができました。調査員には、運営状況を的確かつ手際よく確認することが求められますが、自身の力量不足を痛感しました
- ③ パソコン、インターネット等ITの他、テクノロジー全般の最新動向に関心を持っています。週末には自宅および実家（秋田）の家庭菜園で汗を流し、自然に触れる時間を大切にしています
- ④ ITシステムに関する知識や業務経験を活かし、NPO活動における業務上の課題やお困りごとに対し少しでも解決のサポートに努めていきたいと思っています



藤井 繁

盛内 慎一



- ① 友人が当会会員で入会のお誘いを戴いたことと、私の母親が介護老人保健施設に入所することになり家族目線で見ていくことと調査員となることによりいくらかでも施設等の内情が分かるのではないかとの想いで調査員になりました。
- ② 職員の方々が入居者の一人ひとりに目をかけて忙しい中業務に励んでいることが大変だと思いました。
- ③ ドライブ、映画鑑賞、レンタルにてDVD（洋画アクションもの）
- ④ まだまだサブの調査員として主任調査員に同行して仕事の流れ等を覚えることでいっぱいです。仕事を覚えるのが一番の目標です。



夫婦でトレッキング (富士登山への挑戦)



会員 佐藤 清

夫婦でトレッキングを始める動機は、富士山が世界文化遺産に登録され、登山規制等が厳しくなる前に夫婦で富士山に登頂しようと計画を立てた 2013 年 1 月のことでした。

妻は登山の「登」も知らない全くの初心者でしたが、5 月に私が参加している大沢市民センターのサークル「歩こう会」主催の蕃山・大梅寺コース登山に飛び入り参加し、這いつくばりながらも急階段等をやっと登りきるような状況から始まりました。

このような状態ではあと 2 ヶ月半後の富士登山は無理かと思いながらも、その後も蕃山、権現森山、泉ヶ岳等を登っては見たものの不安があり、スポーツ店で「標高 3775m に挑戦するには?」と相談し、『ある程度の登山用品一式の準備と、登山ガイドを依頼しての岩手・早池峰山挑戦での準備等』のアドバイスを受けました。

6 月、ガイドを依頼し早池峰山登頂に挑戦しましたが、登山開始時からの小雨が途中から大雨、強風となり、登頂を断念して下山。再挑戦を依頼したもののガイドの日程が取れないため、7 月の宮城県の最高峰・屏風岳登山を勧められ、他の参加者 6 人と登頂に参加しました。この日は薄曇りでしたが、登り始めて間もなくからまたもや小雨が降り出し、1 時間遅れで山頂到着の頃は大雨となり、登山道は轟々と流れる川のような中を下山。2 時間半遅れで登山口に戻った頃は暗くなり始めていました。

このような準備を経て富士登山ツアーの講習会に参加、古希前の年代は私達夫婦だけでしたが、苦難をして準備を重ねて来たことからツアー参加を決断しました。

そして 7 月下旬、全国から参加の 50 人が東京駅に集合、バスで山梨県側の富士吉田口 5 合目の登山口へ。出迎えの若い女性ガイドの指示に従って準備運動を行い、17 時半に念願の富士登山がスタートしました。



《編集後記》

昭和 101 年の今年、私は 70 代最終年を迎える。昨年誕生した日本初の女性総理は、「働いて、働いて、働いて、働いて、働いて参ります!」と公言したまでは良かったが、「台湾有事」に関する発言では中国政府の反感を沸騰させ、不穏な事態が生じ始めている。

ウクライナが直面しているような不測の事態に陥るようなことはないことを信じるが、現職自衛隊員諸兄や孫世代の若者達までが巻き込まれるような昭和 20 年以前の二の舞にはならないよう、鷹の嘴で突っかないようにして頂きたいものである。 (曾根)

最初は皆元気で声を出していましたが、途中からは声も出なくなり、それに対して後尾を登るガイドは、高山病防止に備えた呼吸方法を教えてくれる等で励ましの声をかけ、20 時半に 7 合目の山小屋に到着、3 時間登行後の夕食のカレーライスは大変美味しかったと記憶しています。明朝早くの起床に向け 22 時頃に就寝したものの、木製二段ベッドでの寝袋と隣との間も狭く、身動きも出来ず一睡もできませんでした。

4 時 50 分のご来光に向け、3 時半頃にベッドを出て登頂を開始し、8 合目で山中湖上空に昇るご来光を拝み、朝食の弁当を頂いて山頂に向かいました。(朝食時に人数が約 2/3 程になっている事に気づき、後で聞いたところ、装備品や経験不足等から登頂を断念したとの事でした。)

そして 11 時半頃、ついに私達は無事富士山頂に到達! その瞬間、感極まるものがあり、達成感で涙が止まりませんでした。その後お鉢巡りを楽しみ、余韻を味わいながら富士吉田口 5 合目に下り、バスで静岡県側を経由して東京駅で解散し、無事仙台に戻りました。

その後も健康の維持と心身のリフレッシュ、そして認知症防止のため、月に 2、3 回の里山歩きと月山登山等のトレッキングを続けていますが、人生 100 年に向けて、これからも家族やサークル仲間等と、景色や動植物等を楽しみたいと思っているこの頃です。



〈非特定営利活動法人〉

介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会

〈住所〉〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-2-8

仙台 MT ビル EAST 2 階

TEL 022-293-8158

FAX 022-293-8230

E-mail/ ichi@ichimannin.com

〈News Letter 編集委員〉

遠藤 千代 兼平 幸雄 工藤 俊廣
曾根 務 出口 香

